

マリーンランチング計画調査

原 子 保

発表誌名

マリーンランチング計画 昭和55年度委託事業調査報告書

抄 録

サクラマス¹の1才魚は、スモルトに最もなりやすい尾叉長範囲があつて、小さくても大きすぎてもスモルト化率は低下するものと思われる。雄は雌に比較して成熟しやすい性質を持っており、スモルト化を促進するためには成長を抑制する必要があると考えられる。

また、自然の河川では、サクラマス稚魚の棲息密度と餌料生物との関係が、スモルト化の要因のひとつとして作用するようである。